令和 5 年度 兵庫県立上郡高等学校 学校評価報告書

1 教育方針と本年度の重点目標

教育方針	校訓「愛と誠」を根幹に据え、創立から長い歴史の中で築き上げられた良き伝統と地域の支援を継承し、安全・安心で学びたいことを学べる魅力にあふれる学校づくりを推進する。そのため、教科学習面の充実、特別活動面（部活動、地域貢献、ボランティア等）面をさらに活性化させ、生徒たちの進路を切り拓く力や自信を持たせ、地球規模で物事を考えながら、地域に根付いて活動する「未来を語りまちを支える人材」の育成を行う。
重点目標	1 未来への道を切り拓く力の育成 2 地域からの期待に応えられる学校づくり

3 総合的な自己評価

・重点目標 1 について 基礎学力の定着はなかなか難しい。生徒アンケートによると、家庭学習の習慣がなく、本をほとんど読まない者がかなりの割合を占める。学習意欲が低い生徒について、スタディサプリやMonoxer等の学習支援アプリを活用し家庭学習を習慣づけるようにした。探究活動への積極的な取り組みや対話的な学習活動を取り入れ「わかる授業・魅力ある授業」をすることで学習意欲を高め、個々の学力向上と授業力向上を図りたい。SNSによる人間関係のトラブルが増加してきている。また、保護者の教育方針や考え方も多様であり、生徒間の人間関係づくりやクラス運営などへ影響するため、生徒指導部と学年、教育相談担当などの部署間の連携を強化しながらチーム学校として、情報共有と速やかな対応により、個々の案件を未然、事前に防止できるような組織的に対応していく。また、各種学校行事やホーム・ルーム活動を通じて、生徒の内面理解に努めながら、自己有用感を持たせ規範意識を一層高めていきたい。 進路指導の充実については、進路指導部を中心に、各学年・各部と連携し取り組むことができた。10月後半に実施した2年生全員のインターンシップでは、実際の職場を体験することで個々の職業観が育んだといえる。これらを進路指導に活かせるように校内の進路指導体制の強化を目指す。今年度は普通科の生徒が、国公立大学に合格した。 ・重点目標 2 について 専門科は、最新鋭の施設・設備を活用し、スマート農業など新しい分野の学びに向けて職員の意識改革を行っている。高大連携により健康科学類型は、多くの生徒が連携先の大学へ進学することとなり、連携校の指導が反映された結果となった。今年度は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったことで、専門科の実習や総合的な探究の時間での社会人基礎力の育成、生徒会、各部活動など、各種行事に積極的に取り組めた。また、上郡町との連携協定を踏まえた地域創発事業においても、積極的に参加することができた。 次年度も、上郡町や上郡町商工会との連携を深め、共通の課題を抱えた地方の町や大学と連携しながら、町の活性化を検討する実践的な学習活動や上郡町の魅力を情報発信する事業に組み、本校の生徒も事業に参加する中で、ふるさと意識を醸成し、町を活性化するための取組を研究したり、発表したりするなど、地域を支える人材として生徒が成長していけるよう、さらに有効な教育活動を推進していく。

4 学校関係者評価

総合的な自己評価についての評価	<ul style="list-style-type: none"> ・進学について、推薦枠を増やしたり、国公立を目指す生徒を増やすなど、指導のレベルを上げる必要がある。 ・地域への活動として公園の草花の定植ではよくしてくれている。 ・自己肯定感の低い生徒が一定数いるが、それを高めるための取組みとしてやっていることは何かあるか。 ・国公立大学を始め、上級学校への進学者増加に向け、学力伸長を目指した学習指導、進路指導等に期待したい。 ・進路希望や実態に応じた補習を計画し、年間を通じて実施したことは大切だと思う。
-----------------	--

2 学校自己評価結果 (A 十分満足できる B おおむね満足できる C 努力を要する D 一層努力を要する)

分野	評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策
教科指導の充実	授業態度、家庭学習の習慣等、学習規律の確立	B	・家庭学習の習慣化については、スタディサプリ等の学習支援アプリの導入や週末課題、授業の小テストなど工夫し指導を行なった。生徒アンケートで家庭学習0時間と回答した者が、各学年で半数近く存在した。各学年・教科の現状に応じた指導形態での工夫を行い、早急な現状改善に取り組む必要がある。 ・全学年とも進路希望や実態に応じた補習を計画し実施。スタディサプリ等の学習支援アプリを活用し家庭学習の定着化に向けて取り組んだ。年間・月間計画と連動した教科担当・学年・担任による組織的な指導が必要である。
	基礎・基本の定着と進路実現に向けた技能習得	B	・国公立大学を始め上級学校への進学者数増加に向け、過去の特徴選抜・推薦入学・学力検査等で上位入学者の最終進路動向を分析し、さらに伸ばすべく、成績上位層の学習方法の改善を組織的に行う必要がある。将来の進路実現に意欲ある生徒を選抜し、学力伸長を目指した持続可能な学習指導・評価方法・進路指導を行う。
	「わかる授業」と学力伸長のための	B	・「わかる授業」と学力伸長のために、生徒による授業アンケートを年2回実施し、授業の質の向上に努めた。 ・各教室や選択教室に設置されたプロジェクターや大型モニター職員室前の長机・椅子・照明などを備えた学習スペース、など教員への質問や個別最適な学びに向け、有効活用ができた。 ・教材の工夫や評価方法の見直しによって、生徒が授業に落ち着いて取り組んでいる。「主体的・対話的で深い学び」に向けた対話活動や言語活動の充実による授業改善を推進し、知識・技能および思考・判断・表現力を高める授業内容・方法や観点別評価方法などの充実を図る。
	「わかる授業」と生徒一人ひとりの学力の伸長	B	・3学年の専門科の課題研究発表や普通科の健康科学類型・総合的な探究の時間で培われた社会人基礎力の育成、学習成果発表会を1、2年生に見学させた。次年度以降に取り組み内容を先輩から聞くことで、先の見通しや目標が明確になり、学ぶ意欲の向上に繋がり生徒の意識を高めることができた。 ・習熟度別・少人数指導を実施し、基礎・基本の定着に取り組むことができた。 ・上郡中学校と相互に授業見学などを行い中学・高等学校の連携による資質向上・授業改善を目指した、広い視点から授業の見直しと、各教科での活発な0JTの実施、特別な配慮を要する生徒への対応における研修会の開催やカウンセリングマインド研修会、若手教員の研修会等を実施し、資質向上を図った。 ・BYODの実施をうけ、各教科でもタブレット端末を用いた授業を行なった。一人一台端末を活用した家庭学習の工夫や情報の伝達、学校の教育活動全てに対応するICT活用能力の向上と個別最適な学びに向けた授業改善に取り組んでいきたい。
未来への道を切り拓く力の育成	教員の資質向上としての実践的指導力の向上	B	
	生徒指導の充実	B	・挨拶や身だしなみなどの指導について、教員全体で指導することで、頭髪・服装・学校生活とも、注意をされる生徒の数が少なくなっており、3年間を通した指導の中で一定の成果を得た。 ・マスクの着用、電車内での会話等、登下校時のマナーについて、地域住民からの苦情が数件寄せられたため、通学列車指導や地域への巡回指導を実施した。 ・部活動の活性化のため、1学年の1学期を部活動全員加入としている。途中でやめる生徒も多いため、未加入の生徒に声かけを行い加入を勧めていく。 ・新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったことで部活動や、学校行事など活発な活動が行えた。 ・本年度の生徒会活動は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったことで、交通安全キャンペーンを始め、可能な限り各種行事に積極的に取り組んだ。次年度も、校外外での活動を計画・実施し、地域との連携を図っていく。 ・年3回の生活アンケートを実施し、早期にいじめが発見できるように取り組むとともに学校は絶対にいじめを許さない指導方針を定着させる。 ・様々な特性を持つ生徒に適切に対応するため、特別な配慮を要する生徒へにお対応、カウンセリングマインド研修会を、専門分野の講師により実施した。これにより、生徒の持つ特性や、指導方法についての知識を得た。また、保護者の了解の上、個別の指導・支援計画を作成し、全職員に周知して統一した合理的配慮を行った。 ・キャンパスカウンセラーによる教育相談を有効に活用し、生徒への的確な助言や対応の一助となるなど効果があった。
	ルールを守り、自己の言動に責任を持つ生徒の育成	C	
	部活動の運営と自己肯定感を持つ思いやりのある生徒の育成	B	
	生徒に対する毅然とした態度と、生徒、保護者、地域からの信頼	B	
進路指導の充実と学校の特色化	いじめの未然防止、いじめ事案への対応	B	
	生徒の内面理解を図る相談活動、支援の展開	B	
	習熟度別学級編成、進路別類型設定による進路に対応した学習指導	B	・成績上位層の指導計画のもと国公立大学合格者を増やし、模試の結果分析による、きめ細かな教科指導に反映させている。今年度の3学年の進路指導のプロセスを次の学年に引き継ぎ、進路実績を向上させていく。 ・2年生の総合的な探究の時間での社会人基礎力の育成や2学期実施の全生徒によるインターンシップ実施が、生徒のキャリア学習の効果をあげている。次年度以降も生徒の希望を尊重しながら実習先の選定・調整をより丁寧に進めていく。
	キャリア教育としての職業観、勤労観の育成と進路意識の向上	B	・生徒・保護者の進路意識向上に向けて、ガイダンスの内容や来校する学校の種類などを工夫し改善を図る。 ・就農講座や農場見学等、専門家からの講義を受講させた。プロの知識・技能について、生徒の興味・関心・意欲を高めるなど教育効果があった。高校卒業、就職に繋げていくため、今後も粘り強く指導していく。 ・専門科の課題研究は、研究内容を深め成果を得るために、グループで1つのテーマを継続して研究を行った。今後については経年・継続して年度更新による大規模な研究項目の検討も必要である。 ・検定、資格については、ワープロ検定、トレース検定など多数の資格が取得できた。 ・農場施設・設備の充実に努め、専門教育の環境整備・デジタル化が完了した。令和元年度の和牛舎の改修・ドローンを用いた写真測量に対応した高性能パソコン、3次元化ソフトの導入に続き、令和3年3月末に鶏舎2棟と温室の新築が完成している。また、ダンブカーやパワーショベル、各学科への大型ディスプレイ（ビッグパッド）の最新機器を導入し、栽培飼育分野、土木分野ともに産業教育分野で最新鋭の施設設備による持続可能な最先端の探求活動が効能となった。令和3年2月1日に締結した上郡町との連携協定を踏まえ、特産品の開発等において地域と連携しながら、スペシャリストとしての技能習得と地域活性化を目指していく。
	農業のスペシャリストとしての技能習得	B	
「健康科学類型」の充実	B	・健康科学類型については、1学年では、各学期末に各分野の導入として大学教員の講義を受講し、興味・関心を高めた。2学年では、「健康科学基礎」の授業で関西福祉大学の先生の指導を受けることで、各分野への進路意識を高めた。2学期の関西福祉大でのインターンシップでは、上級学校での学びを体験し、進路選択に大いに役立った。3年生では、各自研究テーマを設定し、1年間の探究（研究）活動を行い、結果を学習成果発表会で報告するとともに論文にまとめ研究紀要として関係各所に配布した。夏休みの体験実習（5日間1単位）については、実習先の負担を配慮しつつ実施した。来年度も高大連携の趣旨を踏まえながら計画を立案・実施していく。卒業後の進路先も教育・福祉・看護の3分野が大半を占めている。	
自立する人として、共生の能力を兼ね備えた「社会人基礎力」を培う	B	・上郡町との連携協定を踏まえた地域創発事業では、「総合的な探究の時間」において、早稲田大学人間科学部佐藤将之教授の助言のもと、地域課題の解決にかかるテーマを探究し、解決策を見出し、発信した。次年度は今年度の成果を踏まえてさらに上郡町との連携を深め、より良い地域活性化活動を計画・実施していく。	
地域からの期待に応えられる学校づくり	危機管理	B	・今年度は、防災避難訓練の実施と、上郡町防災リーダーの会の指導による（ペーパーバーテーションシステムの設置、段ボールベット作成、ロープワーク、クロスロードゲームなど）を12月上旬に実施し、生徒・職員の危機管理意識を高めた。 ・感染症対策として換気、手指消毒、購入備品等の各種対策を徹底した。
	環境整備	B	・生徒が気持ちよく過ごせる環境を意識して、教員・生徒だけではなく、管理職や主幹教諭も積極的に廊下掃除などを行い、校内美化に努めた。 ・毎学期、学年毎にクリーン作戦を実施し、学校周辺の美化活動にも積極的に取り組んだ。
	保護者・地域との連携	B	・学校通信「上高だより」「農場だより」、学習支援ツールや一斉メール、学年通信などの定期的な発行により、学校の情報を地域や保護者に発信した。JR上郡駅の駅舎入口に本校生徒の作品を展示し、地域の方に上郡高校を広く知ってもらう機会となっている。 ・ホームページ更新を、随時行い、学校の様子をこまめに掲載するように努めた。
	地域や関係機関と連携した開かれた学校づくり	B	・今年度は新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったことで、文化祭・体育大会などの学校行事を保護者や来賓の方に公開することができた。PTA役員の方の行事参加の機会も拡大し、保護者用学校評価アンケートの評価の向上につながった。 ・白旗城まつりなど地域の各イベントにも参加し、本校についての理解を深めてもらうことができた。 ・専門学科の生徒が毎週水曜日に栽培した農作物を販売する「水曜日」など、開かれた学校づくりに取り組んだ。
	労働環境	B	・今年度の本校の年間平均超過勤務時間数の目標が440時間であるが、11月時点での平均超過勤務時間が363時間となっており超過勤務の縮減が課題である。 ・月曜に実施している早く帰るマンデー（19:00完全退勤）と火曜のノー会議デー・ノー研修会デーはほぼ浸透している。また、裁裁の簡略化やグループウェア活用による職員朝礼の効率化を進めた。 ・部活動顧問の一部と農業関係で実習の伴う職員、業務が集中している職員、教頭の勤務の適性化などが課題である。 ・管理職から、機会ある毎に年休・休暇等によるリフレッシュを呼びかけている。

学校自己評価の結果及び改善の方策についての評価	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化について、課題を課し、それをやらないと単位が出ないなどのペナルティをつける。どのように評価しているのかわかる。追いつまれないと課題が出ない現状がある。 ・読書量や家庭学習の度合いを数値化など、見える化のためにアンケート等の有効的な実施。 ・スタディサプリ等を自らするように工夫ができないか。 ・Monoxerなどの学習支援アプリを活用する。 ・読書に関しても、読書時間を家庭学習時間とみなさないのであれば、家庭学習時間と読書時間の確保を両立することが、困難なのかもしれない。 ・学習は、実態に応じた目標を設定し、組織的指導を続ける。教材の工夫、評価方法の見直しをきめ細かく実施する。
・以前の学校の雰囲気はもっと荒れていたが、生徒と先生の距離感がよい。それが、学校の雰囲気作りに表れている。 ・あいさつなど「当たり前」のことを当たり前にする」ことなど、少しの積み重ねが生徒の学力、豊かな心の育成へつながり、形となって現れ、「生徒の活躍」や「モチベーション」に結びついている。 ・ルールを守り、自己の言動に責任を持つ生徒の育成については、挨拶や身だしなみ等、日々の指導により生徒は落ち着いていると感じる。	
・進学について、推薦枠を増やしたり、国公立を目指す生徒を増やしたりするように、ランクを上げる必要がある。 ・地元を愛し、地元で根付く生徒を育てる。 ・大学教員の講義、大学の先生による指導、インターンシップと成果を着実にだしている。今後も期待する分野である。実践している町との地域創発事業も今後期待したい。 ・模試の結果分析を教科指導に反映させていることは評価する。生徒、保護者の進路意識向上に向けて、ガイダンスの内容等を工夫していることは効果があると思う。生徒自身が学習意欲を持って積極的に取り組むことが大切だと考える。	
・地域への活動としてふれあい公園の草花の定植ではよくしてくれている。 ・スプリング8と連携した取組みをしてほしい。 ・先生が安心して授業ができるから若手の先生が育つ環境ができている。 ・PTCAフォーラムでは、本校生徒会の生徒が会を盛り上げてくれた。 ・生徒が生き生きしている。先生と生徒の信頼関係ができていように見える。 ・水曜日やコープへの生徒会からの感謝状など、生徒は一生懸命にやっており、成果が上がっている。 ・文化祭、体育大会はより積極的に保護者やには公開しているが、地域住民には公開できないか。	